

▶ 第7章

巧妙化する北朝鮮の外貨・物資・技術調達 ——国連制裁の現状と課題

経済産業研究所 コンサルティングフェロー

竹内 舞子

【ポイント】

- ▶ 北朝鮮は国連安保理決議に基づく制裁のインパクトを最小限にするため、様々な回避措置を講じている。外貨調達で新たに登場したのが金融機関へのサイバー攻撃や暗号資産の窃取で、貿易の輸出額を大幅に上回るようになった。
- ▶ 物資調達では洋上船舶での「瀬取り」による石油精製品の密輸入が絶えず、様々な偽装工作が続けられている。第三国に駐在するエージェントやオンライン取引を使うケースも多い。技術獲得で懸念されるのは海外の研究者との共同研究だ。北朝鮮はサイバー攻撃による外貨獲得や技術獲得のためハッカーの育成に取り組んでおり、人工知能（AI）を活用する可能性もある。
- ▶ 米中ロの対立で制裁強化の措置が取られにくい状況は北朝鮮にとって好機になっている。日本は形式的な対応に終始しているきらいがあり、実質的に効果がある行動をすべきだ。日本が北朝鮮の資金獲得に利用されている状況に対抗するための法整備と積極的な国民への情報提供が求められる。



注目データ

北朝鮮の貿易額と暗号資産窃取額

(単位:1000米ドル)

